

社会の変化・発展と都市計画像の変遷

「わずかに40年」から「あと15年」へ

1. 都市計画像は、社会の変化・発展とともに変わる
2. 成熟期社会・日本の「最後の仕事」を構想する

西山康雄*

要 約

この論文は、さまざまな社会を「経済の発展段階」から4つに類型化し、それぞれの社会類型ごとに都市計画の理念、手法がどのように違うのかを、日英近代都市計画の史実、片言隻語から引用し、明らかにしたものである。

その際、とくに下記の2点に注目した。

- ① 貧しい時期から衰退期へいたる社会の変化、発展のなかで、とくに日英の都市計画は、それぞれの時期に、どのような内容、特徴をもっていたか。
- ② 成熟期社会・日本の「最後の仕事」はなんだろうか。

論文は、「都市計画は社会的技術であり、一国の社会の変化・発展に対応して、計画理念、手法も変わる」という都市計画観に立つ。そして、さまざまな国、社会の都市計画は、同じ経済の発展段階にあるとき、類似点をもつことに注目し、諸社会を「貧困期社会」「成長期社会」「成熟期社会」「衰退期社会」と類型化し、都市計画の理念、課題を整理した。

また、英米が活力あふれる「成熟期社会」のあいだに、住宅、高速道路網の整備に国富を蓄積し、社会の安定をはかってきた教訓にもとづき、日本もそろそろ「衰退期社会」への突入を現実的な課題としてとらえる必要があること、その最大の課題のひとつは、東京の居住地改善であることを問題提起した。

「わずかに40年」から「あと15年」へ

ヨーロッパも、もともと豊かであったというわけではない。「豊かな社会となった」と人々がはつきり実感できるようになったのは、「わずかに40年にすぎざるなり」¹⁾。

1872年(明治4年)、ビクトリア朝の最盛期・ロンドンを見た、岩倉使節団一行の印象である。刻

苦勉強さえすれば、40年にして米欧大文明に追いつくことができる、とも読める気概は、のちの高度経済成長期の企業人に通じ、たのもしい。

さて時はうつり現代。最近の日本では、つぎのような議論もある。

大国の歴史を振り返ると、一つの国が本当の意味で繁栄したのはせいぜい35年程度の期間だったという、興味深い経験則がある。こうした視点で

*名古屋工業大学建築系

日本経済を見ると、高度経済成長を終えた70年代から、すでに25年を経過していることに気づく。〈最良の35年〉のうち残された期間はせいぜい10年、この間に、将来に誇れる国富を築かなければならない(竹中平蔵・慶応大学)²⁾。

若き経済学徒のするどい洞察である。

この間、一世紀あまり追いつき追い越せから、最後の仕事をきちんとなしとげねばならない現代まで、主張のめまぐるしい展開におどろく。

都市計画の分野ではどうであろうか。

イギリスでは、1905年前後に近代都市計画の基本理念が確立した。そして、第一次世界大戦後の1920年前後、社会的な活力の衰えは明らかであった。行きつくところが1970年代。深刻な社会経済問題が、大都市インナー・エリアへ山積していた。日本では、1960年代に高度経済成長がはじまり、1980年代に成熟期社会に入った。やがて日本も2010年、総人口の頭打ち、高齢化の進行、労働力人口比がだいに低くなるなど、大きな転機をむかえる。

都市計画を文明史のうえに位置づけ、おおまかにみたとき、わが国の残された繁栄の期間も、せ

いぜい「あと15年」と結論づけられよう。

この間、人に春秋四季があり、また人生に老計、死計³⁾があるように、一国社会にも、伸びゆく時期とともに、衰退の時期がある。そして都市計画は、それぞれの時期の社会状況を映しだし、変わりゆく。それぞれの時期の都市計画の内容は、具体的にどのようなものであろうか。また、活力の衰えが歴史の必然ならば、日本でも、そろそろ都市計画のうえで「最後の仕事」はなにかを議論し、なっとくして衰退していく、そのための老計があるのではないだろうか⁴⁾。

以下、こうした関心から二つの課題を検討したい。

- ① 貧しい時期から衰退期へいたる社会の変化、発展のなかで、さまざまな国の都市計画像は、それぞれの時期に、どのような内容、特徴をもっていたか。
- ② 成熟期社会・日本の「最後の仕事」はなんだろうか。

第一の点にかんしては、日本とイギリス、さらには現代の第三世界の状況にも注目しながら、諸国都市計画の流れを、社会の変化・発展とともにながめたい。また、第二の点では、わが国で制度

表1 社会類型と都市計画像

社会類型	経済的特徴	都市化率	対応する都市計画の特徴
貧困期社会	貧しさ		一枚のパンがすべて。空間水準は生活水準にのみあつた、そこそこのものであればよい。住民の自助・相互扶助の努力。共同の力。高密、混合土地利用。
成長期社会	豊かさへの道中	60%~75%	計画の知恵を上回る、大きな空間変化。基盤整備事業が中心。弱い土地利用コントロール。漸進的開発。旺盛な民間投資。
成熟期社会	豊かさ ゆとりと活力の両立	75%~80%	豊かな生活にふさわしい集住の場を。成長期社会の計画を反省。安定的な空間変化。きめ細かい空間コントロール。総合的設計。低密・アメニティ。
衰退期社会	活力の喪失	80%前後	経済の再活性化を重視。規制緩和。民間活力の導入。空間ストックの老朽化。空間・経済政策の総合的運営。

疲労が深刻となるまえに、いかなる「実験的社会システム」⁹⁾を築き、実験プロジェクトをはぐくんでいくことができるか、を検討したい。

1. 都市計画像は、社会の変化・発展とともに変わる

広く、古今東西の都市計画を、日本を基軸にながめたとき、経済の発展段階、人口の都市集中のていどにより、貧困期社会、成長期社会、成熟期社会、衰退期社会の都市計画と、四つにわけることができる⁹⁾。

ここでは、それぞれの時期の都市計画像の内容と特徴を、いくつかの片言隻語を引用しながら分析する。

1. 1 貧困期社会における都市計画

墓地を不法占拠し、住みついたカイロの「死者の街」。ごみ捨て場に住みついたマニラの「スモーク・タウン」。

これらの光景は、わたしの心に、痛ましさと、なすべき手だてもない専門家としての無力感を与え、気は重くなった。道路もない、水道もない、排水路もない。あらゆる都市サービスと無縁の地で、人はなお、黙々と日々のいとなみを続けていかなければならない。

これが、第三世界の現実である。

しかし、こうした事態は、カイロ、マニラのみみる特殊なことであろうか。第三世界では、ごく普通の現象のように思われる。

わが国で成長期都市計画を指導した者は、「つねに未来は明るい」と説き、人々を鼓舞した。今日の多少の無理は、明るい明日のためには堪え忍ぶべきものとされた。人々は工業に就労を求め、村を離れ都市に集まった。向都離村である。

しかし、第三世界の現実は大きく違う。農村の貧困が人を大都市に押しやり、大都市の人口は爆発的に増えている。工業化なき都市化である。そして、極貧、飢え、大火、水害などが日常化し、つねに生活危機に直面している。

それにしても、日常化した災いの実態を正確に

記述することは可能であろうか。

一人あたりの所得値もいいだろう。人口密度もいいだろう。しかし都市計画担当者が、あらゆる表現手段と方法を駆使しても、スラムで、生きつづけることに懸命な人々のさげび声を的確に表現することはできないであらう。

文学者の鋭い感性がなければ、的確に表現することはできないであろう。

「しかし、人間なんとしてでも生きて行かなければならないのだ。どこへも行くところがなければ、そこで生きなければならぬのだ」(堀田善衛)¹⁰⁾。

「旧来の、つまり何世代にもわたって慣れ親しみ身にしみこんだ貧しさが、絶えず惨めさに急変するかもしれないというのに、どうやって人々はいつも人間でありうるのか？」(ギュンター・グラス)⁹⁾。

第三世界を歩くたびに、これらの文章は、重く低くよみがえってくる。

1. 2 成長期社会における都市計画

技術革新と消費革命が進み、生活が着実に向上していく。1950年代半ばからの日本は、こうした勃興期にあった。人々は、「明日は今日より、かならず豊かである」⁹⁾と信じ、よく働いた。

成長期・イギリスも例外ではなかった。

「イギリス人は、五時にて仕事を終え、もう一時間をほかの勉強・仕事に励む」¹⁰⁾。

1872年、最盛期のビクトリア・ロンドンを訪れた岩倉視察団一行は、驚きをもってかれらの勤勉さを書きとどめている。

空間の変化は、計画の知恵を上回るほど激しく、住宅地整備、居住環境整備は、つねにあとおいであった。

「汚いもののあるところに金はある」(ビクトリア・イギリス)、「輝かしい大都市市民とはいえ、19世紀末のイギリス人は、ウサギのような生活をしてきた」(D.H. ロウレンス)¹¹⁾、さらには、「人々がそこで幸せな生活を営んでいるかどうかではなく、建てられた住戸数で政策の可否を問うようになっている。その結果が目前の数多くのスラ

ムである」¹²⁾といわれた。

劣悪な居住環境にある大都市の労働者を都市計画の対象とせよ、との主張である。

東京府知事・芳川顕正のつぎの一文も、明治このかた成長期にいたるまで、日本の都市計画が基盤整備に力点を置いて進められてきたことを、みごとに表した名言といえよう。

「道路橋梁河川は本なり。水道家屋下水は末なり」(1884年)¹³⁾。

また成長期を代表する政治家・田中角栄の演説も、産業基盤整備を中心とした財政方針を明確に述べている。

「第一に社会資本の充実、産業基盤の強化であります。わが国の経済が対外競走を強化し、輸出力を増大し、自由化に邁進するためにも、また日本経済の安定的成長を実現するためにも、民間資本の充実に即応して社会資本を格段に充実し、産業基盤をいっそう強化し、国民経済全体として、近代的合理的な国づくりをおこなわねばならないことを痛感したわけであります」(1963年)¹⁴⁾。

ところで庶民は、軽視される住宅政策をどのようにみていたのだろうか。

「台所つき食事室」が公営住宅に登場したのは、1951年のことであった。2DK(民間2室、台所つき食事室)、延べ床面積43平方メートル。夫婦と子ども二人という、大都市の標準的家族むけの「ウサギ小屋」であった。

「台所つき食事室で晩酌するのが大好きの大工さんがいました。後ろをむけば、台所ですぐあつかんができるというんです。(もう男が女房に酒をもってこいなんていえる時代じゃありません。男女平等の民主主義ですよ)」¹⁵⁾。

成長期社会では、所得も都市人口も、すべてのことが上向き、急カーブの二次曲線によって変わった。そして求められる都市計画像とは、「事業で量をこなす」「ゆるい土地利用規制」「公の金のかからない事業」であった。

井上孝教授は、東京大学の定年退官最終講義で、若き世代に託しつぎのように述べた。

「目下の急務は、やはり、量をこなすことであろうと思います。…規制だけに頼って、果たして計

画的な市街地が出来上がるかどうか。…唯、諸君よ、量をこなし得るものに関心を持って申しあげたい」(1978年2月)¹⁶⁾。

平たくいえば、イギリス風の、詳細な土地利用コントロールではなく、道路整備中心の事業こそ必要ということであった。

つぎにゆるい土地利用コントロール。台南市役所の陳さんのつぎの言葉が印象的である。

「商売じょうずの中国人に、〈都市計画で、用途混合はダメと決まっている。だから、住宅地に店を出すことは禁止する〉といったって、無理ですよ。まずは生計をたてることが第一。こういうときは、はじめは規制はゆるめにし、生活が落ちてきたら、きびしくする。これを、鉛筆一本で決めるのが都市計画担当者の腕というものですよ」(1985年)¹⁷⁾。

また、「巨大な基盤整備の事業需要」と「乏しい公共資金」という二重苦のなかで、「公共の財源をあまり使わない事業」として、区画整理に注目が集まる。

区画整理は、都市化に伴う土地増価(地価の上昇)を利用していること、民間地主の自助の都市計画という位置づけである。

「都市化は、富の創出過程である。にもかかわらず、どこの自治体も、逆に財源難に直面している。区画整理は自治体に公共事業実施の財源をもたらすもうひとつの方法である」¹⁸⁾。

1. 3 成熟期社会における都市計画

成熟期都市計画の新しい理念と手法は、まず、成長期都市計画の公害、環境破壊、劣悪な居住環境、大都市で深刻な住宅問題など、「マイナスを取り除き」ながら、じょじょに形成されていった。

無理を重ねた成長期都市計画の矛盾と問題点は数多い。

たとえば19世紀末のイギリス。

うえと失業の恐怖。さらに、まんえんするコレラは、大きな社会・政治的不安定をまねいていた。ときの権力者が恐れ、マルクス・エンゲルスが告発した社会的危機である。

「まともな住宅を供給したことが、政治的急進主

義を手なづけた」。

危機意識が、社会システムの総点検を可能としたわけである。

この時、正義感あふれる多くの人物が、新しい「実験的社会システム」を提案した。ものごとを長期的に、多面的、根本的にとらえ、社会システム全体の変革を訴える社会改革家(Social Reformer)である。

知恵者は社会改革家・ハワードと都市計画家・アンウィン¹⁸⁾。

ハワードは、世紀末の1898年に一冊の本、『明日』(のちに『明日の田園都市』と改題)を著した。イギリス社会が衰退するまえに、なすべき「最後の仕事」の絵リストを、田園都市構想のなかに組み込んだ。ハワード構想は、部分改良にとどまらず、つぎのようなパラダイム(ものの考え方、とらえ方)の大転換を含んでいた。

- パラダイムⅠ：大都市機能は集中させるより、分散が望ましい
- パラダイムⅡ：土地利用は混合でなく、純化が望ましい
- パラダイムⅢ：過密過大都市でなく、小都市が望ましい
- パラダイムⅣ：過密高密度でなく、低層低密住宅地が望ましい

これらは、1909年に始まった近代イギリス都市計画の基本理念そのものであった。

アンウィンは、経済成長をささえた中流階級のために、豊かさにあふれる居住環境の整備を提案した。人生成功の充実感を、心やすらかに、郊外住宅地で味わうためである。

「人は、パンのみにて生きるにあらず。ゆえに快適性(アメニティ)あふれる居住環境の整備が必要である」²⁰⁾。

さらに、生活と空間の相互関係に想いをいたし、総合的把握の必要を訴えた。

「現在の住宅地をながめた時、その開発があまりにも利己的に進められている点は残念である。…空間は、それを形づくった人々の生活観を反映し

ている。町はたんにあがいている人々の集まりにすぎず、社会関係はばらばらで、秩序ある結びつきも少なく、共同生活もうすれ、こうした事実が自然と街路計画、敷地計画にもあらわれている。各戸が最適の環境に置かれるようにするため、地区を全体として計画するという視点はなく、個と全体の統一・調和に欠ける点もあまりに明らかである」²¹⁾。

ともかくも、活力ある経済社会は達成された。しかし、同時に居住環境の貧困、さらにアノミー化する社会、という問題をかかえたわけである。成長期社会に共通してみられる無理であろう。

イギリス最初の都市計画法(1909年)は、「郊外の〈住宅地〉を計画的に形成する」ことを目的に立案された。その内容は、「エーカーあたりの住宅戸数を12戸に制限する」といったきびしい空間コントロールであった。その背景には、自由放任の結果として生じた大都市スラム、劣悪な居住環境への反省があった。

「民間企業は、放置しておけば、かつてに個々の利益を追い求めて行動する」。

1947年の都市計画法は、詳細な空間コントロールの完成された姿であった。すべての開発行為は許可制となり、「世界に誇る都市計画システム」が完成した。

しかし世は無常。この都市計画システムの完成は同時に、システムが前提としていた社会像のゆらぎはじめをも意味していた。成熟期社会から衰退期社会への転変である。

1. 4 衰退期社会における都市計画

「衰退期社会とは、あまりにデリカシィに欠けた表現ではないだろうか」。

第4期の社会をいかに的確に表したらいいのか、いつも困る。

「ポスト・成熟期社会」「もうひとつのイギリス」「第三世界の再現」。

ようするに、社会は活力に欠け「経済的衰退」に直面し、失業の多い地域をかかえている、また、大都市周辺部のインナー・エリアに山積した問題は、「経済的衰退・空間的老朽化・社会的問題・少

表2 社会類型と経済・社会指標

	経済指標		社会指標			
	一人当り GNP	GDP 成長率	人口 (百万人)	人口 増加率	乳幼児 生存数 (千人当り)	医師一人 当り人口
貧困期社会：						
Canbodia	\$ 110	0%	8.4	2.2%	116	27,000
Nepal	\$ 170	2.0%	19.6	2.3%	118	20,234
Bangladesh	\$ 179	6.2%	115.6	2.7%	108	6,219
Laos	\$ 180	9.1%	4.2	2.9%	97	6,495
Bhutan	\$ 190	9.0%	1.5	2.3%	118	9,736
Vietnam	\$ 200	2.4%	68.2	2.2%	54	3,140
Bruma	\$ 278	5.1%	42.6	2.1%	59	3,485
China	\$ 325	5.0%	1,152.5	1.4%	27	724
India	\$ 350	4.5%	845.7	2.1%	88	2,075
Pakistan	\$ 380	5.6%	115.6	2.9%	90	2,122
Sri Lanka	\$ 430	5.1%	17.5	1.3%	24	6,989
Indonesia	\$ 555	7.0%	180.2	1.8%	65	7,238
Phillippines	\$ 691	3.0%	63.0	2.3%	40	1,016
成長期社会：						
Thailand	\$ 1,418	10.0%	56.3	1.4%	24	4,361
Malaysia	\$ 2,305	10.0%	18.4	2.3%	13	2,656
South Korea	\$ 5,569	8.6%	43.2	0.9%	21	1,139
Macao	\$ 7,710	6.2%	0.5	4.9%	7	951
Taiwan	\$ 7,990	5.2%	20.6	1.2%	5	961
Singapore	\$ 11,575	8.3%	3.0	1.1%	7	753
Hongkong	\$ 12,069	2.4%	5.7	0.9%	6	982
成熟期社会：						
U. S.	\$ 21,835	1.0%	250.7	0.7%	8	404
Japan	\$ 23,570	4.9%	123.8	0.4%	5	634
衰退期社会：						
U. K.	\$ 17,042	0.7%	57.4	0.2%	8	611

数民族」と複合的で、解決策は総合的でなければならぬ²²⁾。つまり主要課題は、「いかに衰退を乗りこえるか」で、キー・ワードは「衰退」である。

衰退期社会では、「問題は深刻。だが、資金不足で解決は難しい」という二重苦にある。

たとえば、空からながめた成長期の韓国では、いたるところでは道路工事中である。一方の衰退期・イギリスでは、進行中の土木現場は、ほとんど見る事ができない。ただただ豊かな緑の自然が横たわっていた。ことは市街地でも同じ。「ロン

ドンの市街地では、建設工事用ダンプカーをまったく見ない。走行が禁止されているのだろうか。1973年11月。はじめてロンドンに足を踏み入れたときの第一印象であった。

また、フランクフルトの都心周辺部に集まって住むトルコ人集団を見たとき、成熟期に労働力不足をおぎなうため外国人労働者に頼り、そして社会問題となっていることを強く感じた。つまり、成熟期社会のつげがまわってきたわけである。そして、「貧困の集中」という点では、第三世界にも

似た光景であった。

2. 成熟期社会・日本の「最後の仕事」を構想する

成長期社会から衰退期社会へ移りゆくさまは、工業化、都市化の進展とともに、しだいに生活が豊かになり社会資本が蓄積され、最後は「衰退」の問題に直面するという、人生・四季にも似た、一連の過程であった。

そして、「いかに成熟期社会に国富を蓄積できたか」が、衰退期社会の問題の広がりや質を決める。アメリカは高速道路網、イギリスは住宅地。この国富のおかげで、かれらは今の時代を生き延びている。

時代の転換期に、しばしばすぐれた社会改革家、都市計画家が出現し、めざすべき社会像と都市計画像を示してきた。

イギリスのハワードとアンウィンは、成長期から成熟期への転換期に出現した。

わが国では、石川栄耀（いしかわ ひであき 1893年～1955年）。戦前・名古屋の郊外区画整理を実践し、東京・戦災復興計画を構想した人物である。

大正期、わが国都市計画の出発点で、つぎのような都市宣言文を描いた。

「小さなコミュニティ単位で、こじんまりと住む小都市主義。大都市のもつ活力、にぎわいを楽しむ都市味到。これこそ都市計画の目標。区画整理はその実現手段である」。

構想が、時代のはるか前を走り抜けた。ロマンチスト・石川と呼ばれたゆえんである。問題は、この現代の転換期にふさわしい、第二の石川を持ちうるか、その構想を描きうるか、である。

現在の日本の国土空間を、すなおに評価すべき点は評価しながら、ながめてみよう。

夜、女性がひとりでも安全に歩ける街。密度高く住まう省エネ都市。にぎわいあふれる土地利用混在の下町。驚くべきサービス密度と正確さで運転される高速鉄道、新幹線。日常生活に組み込まれたハイ・テック製品。

都市計画研修のため来日した東南アジアの政府高官は、ただただ、こうした「輝く日本」と「日本型生活様式」に驚いていた。

すでに〈住まうこと〉にかんし、地方都市、農村部では、さらにいえばただ東京をのぞいて、深刻な問題は少ない。

「最後の仕事」のひとつは、「巨大都市・東京で、いかに居心地よく住まうことができるか」であろう。成長期と成熟期を支えた中堅サラリーマン、下町、勤労階層の人々が、「ここが自分の住みかだ」とはたして実感できるか。「生きるに値し、死ぬに値するまち」²³⁾と、心底から思うことができるか、である。

この「最後の仕事」を、3000万人の東京巨大都市圏で組み立てるためには、「成長期に形成された市街地像の問題点を反省する」「成熟期社会にふさわしい住宅地に組みかえる」ことが必要となる。そして、つぎのような原則があろう。

原則①：高密非高層都市型住宅様式を確立せよ

「わが家」からの変革と発想が、まず必要だろう。高層マンションだけが、都市の住宅というわけではない。天と地を手におさめる、小規模な接地型都市住宅もある。都心周辺部、郊外、それぞれに環境と共生しながら、「密度高く住まう」ための日本型集住システムが形成されねばならない。

原則②：コンパクトな都市構造に組みかえよ

全体からの発想として、成長期市街地の都市構造を総点検し、コンパクトな都市構造に組みかえていくことが必要である。市街地の拡散拡大をくい止める、特定方向へ偏心する市街地開発を修正する、職住の関係を、職場の分散化とともに、住宅地の適正配置からも見なおす、きめ細かな土地利用計画にもとづく都心居住推進、いわゆる木賃アパート密集地区の再整備。対策は、各地区の実態に対応し多様である。

原則③：東京の戦略地区は、環6と環7のあいだの「木賃ベルト地帯」に注目せよ

大正期に、道路末整備のまま、狭小敷地に戸建

住宅、木造賃貸アパートが建てこみ、戦災、成長期をもちこたえた地区である。防災上も問題をかかえる高密度市街地となっている。地区改善の必要性は高いが、その可能性は低い、しかし、これからの10年、20年が改善の最後のチャンス、という地区である。3階建ての戸建住宅、3階建てアパート併用住宅に建て替えの進む現状は、改善の可能性を秘めている。

2010年の日本。衰退期社会の到来は必然であろう。これを避けることはできない。このとき、道路・橋梁などの空間ストックの老朽化は進み、ぎゅくに、投ずべき政府資金もすでに豊かではない。経済の再活性化をめざし、必死の思いで規制を緩和する。

これが、「月影傾きて、余算の山の端に近い」(方丈記) 2010年の日本社会の姿である。

はたして19世紀末のイギリスにハワードが出現したように、今世紀末、われわれは第二のハワードをもちうるか。

注

本稿は、拙稿、「日本も(あと15年)、いかに(住まうこと)を位置づけるか」、『JAPIC』、№45、1994年9月をさらに展開したもので、関連論文としてつぎの論文がある。

拙稿、「日本を基軸に世界都市計画の構図を描く」『都市計画』、第163号、1990年 4月、p. 15-23.

- 1) 『米欧回覧実記：Ⅱ』、岩波文庫、p. 66 日本近代文学の代表的な作家である夏目漱石も『三四郎』のなかで、「明治の思想は、西洋の歴史にあらわれた三百年の活動を、四十年で繰り返している」と述べている。西歐300年の歴史に40年で追いつこうとしていると述べたわけである。
- 2) 竹中平蔵・慶応大学助教授、朝日新聞、1994年5月22日。
- 3) 安岡正篤、『運命を創る』、プレジデント社、1985年。
- 4) 以下、イギリスの経験を多く引用する。なぜいまイギリスか。老いたとはいえ、現代イギリスが、落ち着きをもって衰退期社会を生き延びている理由のひとつに、かつての成熟期、「住まうこと」を中心に社会システムを築きあげたことがある。このイギ

リスの体験に、成熟期・日本はいまこそ学ぶべきであると思う。

- 5) 内橋克人、「共生の大地」、日本経済新聞、1994年。
- 6) この都市計画モデルを、「都市計画におけるロストウ版」(W. W. Rostow, *The Stages of Economic Growth: A Non-Communist Manifesto*, 1960) と誤解するむきがある。しかし、文化軸をもう一方に設定しとらえている(1988年東京シンポジウム報告書)、発展しつななしの史観ではなく、東洋の心を持った「盛者必衰」の史観である、などまったく構成が違う。

なお、この都市計画モデルは、つぎの一連の論文でしだいに展開してきた。

拙稿、「変化型社会における都市計画像」『不動産研究』、第26巻第2号、1984年4月。

拙稿、「分極化する都市計画像と日本の寄与」『国際比較による大都市問題調査研究報告書』、国土庁、1985年3月、p. 1-144.

拙稿、「分極化する都市計画像」『群居』、第8号、1985年4月。

拙稿、「日本を基軸に世界都市計画の構図を描く」『都市計画』、第163号、1990年4月、p. 15-23.

- 7) 堀田善衛、「インドで考えたこと」、昭和32年、39歳の堀田善衛がインドで記した一文。
- 8) 西ドイツの作家。ギュンター・グラス、「例えばカルカッタ」、朝日新聞、1990年1月4日、夕刊。前節でも引用した。
- 9) 成長期・東京の都市計画を指揮した山田正男・元東京都建設局長は、『明日は今日より豊かか』政策時報社、1980年という、実践に支えられた鋭い問題提起の書を著した。
- 10) 『米欧回覧実記：Ⅱ』、岩波文庫、p. 56.
- 11) この一文の出典は、D. H. Lawrence, *Phoenix*, 1936, p. 130で、「ウサギ小屋批判」の原典と思われる。「ウサギ小屋批判」とは、1979年秋、ECの出版した日本批判の秘密文書(原文はフランス語。イギリス人の執筆といわれる)が日本人のことをつぎのように記述し、その西歐と違った異質性を批判したものである。Japan is a country of work aholics who live in what Westerners would regard as little more than rabbit hutches.

筆者は、このローレンス(1885-1930)の文章を、

イギリス労働党の *Speaker's Handbook*, 1948-49, p. 21 により知った。イギリスでは、世に広く知れわたった表現といえよう。

- 12) W. L. Creese, ed., *The Legacy of Raymond Unwin : A Human Pattern for planning*, 1967, p. 176. R. アンウィンの文章。

- 13) 1884年(明治17年)、芳川顕正が「東京市区改正意見書」で述べた一文。

芳川のこの一文は、中国古典・『大学』の「徳は本なり。財は末なり」を念頭に、ねり上げたものと思われる。財は、その人間に徳さえあれば、自然にあとからついてくる、それゆえに、徳がまず大切という意味である。したがって、道路整備さえまずしておけば、水道などは順次、あとから整備していけばいい、という意味で、①基盤整備の順序を示す、とともに、②なかでも、まずは道路などを重点的に整備すべきであるという優先度をも示す。

筆者はこの整備思想は、現代第三世界の都市整備にも適応できる普遍性をもつと考える。そして、戦後直後の日本で試みられた傾斜生産方式(石炭と鉄鋼増産に再重点をおき、生産量の拡大につとめる手法)に習い、「傾斜整備方式」と名づけ、いくつかの論文で展開した。

- 14) 1963年1月に開かれた国会で、大蔵大臣演説として述べた。田中角栄は、1972年から1974年まで首相で

あった。宮本憲一、『昭和の歴史：経済大国』、小学館、1989年、p. 118.

- 15) 朝日新聞、1994年8月26日。

- 16) 井上 孝教授は、東京大学都市工学科教授として、おもに都市土木の分野で、成長期の日本都市計画を指導した。

井上孝、『都市計画の回顧と展望』、1989年3月、p. 59.

- 17) 日常の都市計画業務を、住民に近いところで誠実におこなってきた陳さんのこの思考は、教科書からではなく、日常の実践から都市計画を考えていくという、重要な視点を示してくれる。1985年10月16日、台南市の郊外住宅地視察の現場にて。

- 18) W. A. Doebele, *Land Readjustment : A Different Approach to Financing Urbanization*, 1982.

- 19) こうした社会的文脈でつぎの著書を書いた。

西山康雄、『アンウィンの住宅地計画を読む』、彰国社、1992年。

- 20) R. Unwin, *Town Planning in Practice*, 1990, p. 4.

- 21) *Ibid.*, p. 375.

- 22) Cmnd. 6845, *Policy For The Inner Cities*, 1977, HMSO.

- 23) 小野智之ほか、『実録・倉敷町並物語』、倉敷都市美協会、手帖社、1990年。

Key Words (キー・ワード)

Town Planning as Societal Technology (社会的技術としての都市計画),
 Social Typology (社会類型), Economically Evolving Society (成長期社会),
 Matured Society (成熟期社会),
 Final Job in Japanese Town Planning (日本都市計画における最後の仕事)

Social Change and Town Planning

Yasuo Nishiyama*

*Nagoya Institute of Technology

Comprehensive Urban Studies, No.55, 1995, pp.5-14

Town planning is a kind of societal engineering and has transformed its concepts and methods through the historical development of socio-economic conditions in a society

The purpose of this paper is to clarify the ideals and development methods of town planning in each society, which is categorized into four types by the stages of economic development: Poverty stricken society, Economically evolving society, Matured society and Declining society.

Main topics mentioned below are discussed in the paper.

- 1) What were the contents and characteristics of town planning in Japan and United Kingdom from Poverty stricken society to Declining society ?
- 2) What kind of final job in the town planning field should Japan accomplish before entering into the Declining society in the early 21st century ?